中学校３年間における放射線授業に関する

公開パネル討論の開催について

**主催：NPO法人放射線教育フォーラム**

* **開催趣旨**

平成２８年度から使われ始めた中学校理科教科書は、福島での原子力災害の経験を踏まえ、放射線に関わる記述が充実し、その活用が期待される。しかし、教育現場では、経験の不足から放射線授業に対する戸惑いやためらいが残るなかで、現状における授業時期が３年の３学期と入試時期に重なる教科書が多いなど、授業実践には課題が指摘されている。

ＮＰＯ法人放射線教育フォーラムは、過去３年間にわたって、全国各地における放射線授業の実践の交流を図るなかで、本年２月に新しい教科書による中学校３年間を見通した放射線のモデル授業を提案した。この提案のなかで、光（１年）や電流（２年）の単元における発展学習の扱いとして科学としての放射線の特徴に触れ、興味・関心を誘発し、３年の最終単元「エネルギー資源」での原子力発電を含むエネルギー選択の議論へと、放射線を科学的に考える力を段階的に育む授業方法などが述べられている。

これらの放射線授業が３年間で効果的に実践されるためには、中学校理科の学習目標に合わせて、文科省が示している授業の４つの評価規準、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の観点をより具体化して、「つけたい力」を明らかにすることが、次の段階で重要と考えている。

このため、今回の企画では、全国各地の意欲的な中学校理科教員を招いて放射線授業の実践報告をしていただき、基調講演及び会場参加者を交えた公開パネル討論を実施する。

**〇 プログラム**

タイトル：　　　公開パネル討論「中学校３年間における放射線授業」

開催日時：　　　１１月１３日（日）１３:００～１７：００

開催場所：　　　東京慈恵会医科大学高木２号館南講堂

参加対象者：　　教職員及び一般（約１００名）

テーマ：　　　　中学校３年間を見通した放射線授業とその継続的改善方法について

実践報告者：　　４名（福島県、栃木県、東京都、熊本県）

基調講演者：　　 調整中（文部科学省）

講演テーマ：　　 理科授業の評価について

モデル授業提案者： 放射線教育フォーラム

パネリスト：　　 　実践報告者、講演者及び授業計画提案者（放射線教育フォーラム）

コーディネータ： 調整中

資料代：　　　 １０００円

以上